

あずさからのメッセージ

～子どもに学ぶ命の尊さ～



是松 いづみ

1 はじめに

- 一緒につくる授業
 - ・素の私になって考える
 - ・正解も間違いもない私の答え

2 あずさからのメッセージ

- 今の私。
 - ・どんな私がいるのかな
- 一人一人違う「設計図」
 - ・世界に一人しかいない、かけがえのない存在、私。
- あずさ誕生から今日まで
 - ・家族
 - ・友だち
 - ・学校
 - ・自分だったら
 - ・将来の楽しみ、不安
 - ・あずさの言葉 聴く気持ちがあれば

3 子どもたちの感性に学ぶ

- 楽しみと不安の境目
- ボクが将来、障がいをもった子どもの父親になったら
- 「『ガイジ』って言ってごめんね。もう、ぜったい言わないから。」
- 「おかあさん、だいじょうぶ。だってボクあずさちゃんのこと大好きだもん。」
- これからの私は。
 - ・「最初の私とちがうよ。」
 - ・なりたい私

4 さまざまな出会いの中で

- あずさを通して巡り会った方々
 - ・「一緒に保育園に行きましょう。」
 - ・「明日から保育園においで。散歩がてらに。」
- 出会い直し
 - ・夫と
 - ・息子と
 - ・娘と
- 障がいはエネルギー？！
- 自立に向けて

5 おかあさんへのメッセージ

あずさからのメッセージは

「あずさからのメッセージ」は、未来を創っていく子どもたちへ、そしてその未来を育てている大人へ向けて発信しています。さて、梓からのどんなメッセージがあなたに届くでしょうか。

授業が生まれるまで

「あずさからのメッセージ」とは、私が高学年の子どもたちを相手に授業をしているタイトルです。「梓」とは私の第3子です。梓は「ダウン症」という「障がい」があります。

梓が生まれてから、連れ合いと「いつか梓の事を授業にして、子どもたちに伝えていきたいね。」と話してきました。自分の中でうまく整理がつかなくなったり、思いが強すぎたりして、授業を組み立てることの難しさに足踏みしていました。でも、「まずは一歩を踏み出すことから」と2002年に担任をする5年生の学級で初めて梓の授業を行いました。

この学級では、普段から梓を含めた我が家の話をしていたこともあり、笑いと涙と子どもたちの質問のシャワーです。私との距離が近いだけに本音でぶつかり、納得するまで質問してくれ、エネルギーにあふれていました。この子どもたちからエネルギーをもらって、他の学級や学校や保護者や地域の方にも授業をするようになり、今日に至っています。

実際に授業をして

たった1時間の授業で子どもたちの「障がい」に対する認識が、大きく変化し、その後の行動が変わるということはないと思っています。考えるひとつのきっかけでしかありません。しかし、これからもどこかで「ちょっと手助けが必要な友だち」と出会った時に授業の事を思い出してくれたら嬉しいなあと思っています。6年生の子ども感想に「自分が、障がい児の父親になった時に今日の授業を思い出してしっかり育てていきます。」と言う言葉がありましたが、いつかどこかでこの授業を思い出してくれると嬉しいです。

こんな授業をめざして

教師の思いを押しついたり、建前だけの授業にならないように気をつけています。学習の中で、「今、こんな自分がいるんだ。」と自分の立っている所に気づき、歩んでいく方向が見えてきたらいいなあと思います。そして、「こんな風になりたいな。」「こうしてみたいな。」と思う自分と出会えて、こんな自分も好き、なんだか楽しい、もっと知りたいと感じてくれたら最高です。

そして、授業は子どもたちと一緒に創っていきたいと思っています。子供の思いや発言で、毎回違った展開の授業になっており、私の方がそのおもしろさを感じさせてもらっています。私を教師として知っている子ども、梓の事を知っている子どもがいる小学校の子ども、お互いを全く知らない子ども・・・とそれぞれではありますが、その良さを引き出し、友だちの思いを受け止められる授業を創っていきたくて願っています。

そして

「障がい」をもつ梓と出会えた事は、私にとって大きな宝物です。そして、教師であったことを幸運だと感じています。授業を通して「人と人との関わり」「君たちが未来を創っていく主人公」であることを伝える機会に恵まれたことも。

今日皆さんと一緒にどのような授業が創れるか楽しみです。答えには間違いも正解もありません。自分の思いを出し合って楽しい授業にしましょう。新しい自分と出会えるかも。

これから

参観された方々から「中学年向きの授業を」「低学年にもわかる授業を」という宿題をもらって何年かが経ちました。

夫婦で検討し、実際に授業の流れを作ってみたのですが、「障がい」をどう捉え、理解させるか、という点で早くも壁にぶつかります。「お隣の席の A ちゃんは、ひらがなが書けないから練習しているんだね。」「B 君は、恥ずかしがり屋でありおしゃべりしないけど、走るのが速いんだ。」低学年ほど、その子どもを丸ごと受け止め、「そのまんま」で生活し、学習しています。けんかしたり、仲直りしたり、声かけしたり、引っ張られたり・・・そんな子どもたちに「手助けがいるお友だち」「ゆっくり成長していくお友だち」とわざわざ知らせる必要はないように思います。ましてや親の思いを感じたり、会ったこともない梓のことを想像したりすることは難しいです。中学年以下の子どもたちは、実際に会ってしゃべったり遊んだり生活する中で学んでいくと考えます。でも、「学級の C ちゃんのことをもっと知りたい、私の事も知ってもらいたい。」という形での授業ならばどうだろう・・・2013年に1年生から6年生までの児童を対象とした授業をそれぞれに作りました。試行錯誤しながら修正している所です。

第2弾 あずさからのメッセージ 作業所での「仕事・仲間・福祉」をテーマに「未来を創るのは私たちだ！」という授業はできないだろうか・・・これは模索中です。梓の成長に合わせて授業も変わっていくだろうと思います。親の課題も増える訳ですから。まだまだ「乞うご期待！」と言える状態では、ありませんが、探り続けていきます。私のライフワークになりそうです。

参加してくださった皆さんへ

担任をしていた学級で行っていた授業ですが、様々な方から声をかけて頂き、他の学校の子どもたちや保護者の皆さんや教職員にお話をするようになりました。

いろいろな所で、授業をしたりお話をさせてもらったりする機会を得て、その度に私の方がエネルギーをもらってきました。思いもかけない出会いに感動したり、お子さんの事で悩んでいる方と話を一緒に泣いたり、担任が自分のお子さんの障がいを学級の子ども達に語るきっかけとなったり・・・。そんなこんなで、エピソードや伝えたいことも増えるばかりです。

梓が在籍していた学校では、毎年授業をさせてもらっていましたが、梓の中学で初めて1年生5クラスに授業をさせてもらった時のことです。梓も参加しての授業です。中学生はどのように受け止めるのかなあ、と期待と不安と半々でしたが、生徒の皆さんが自分たちの仲間の一人として受け止めてくれていることを嬉しく感じました。「今年、交流学級では是松さんと同じ学級になったから、今年だけでなく卒業までずっと友だちでいたい。」「是松さんは、僕たちの大切な仲間です。おかあさんの思いが強く伝わってきました。」「自分にできることって何だろう？ずっと問い続けていきます。」「福祉を進路に選ぶ気持ちが強まりました。」・・・ね、「今どきの中学生」って、なかなか捨てたものじゃあないでしょう？ステキな感性と温かさに出会うことができました。

子どもたちは未来

大人にも子どもと同じ目線に立って頂いて、授業（講演会）を聴いて頂いています。「あずさからのメッセージ」だけでなく、今を生きる子どもたちからのメッセージが届くことでしょう。子どもたちは未来。未来を創っていく子どもたちに、私たち大人ができることを一緒に考えていきましょう。

おかあさんへのメッセージ

あなたの息子は、
あなたの娘は、
あなたの子どもになりたくて生まれてきました。



生意気な僕を
しっかり叱ってくれるから
無視した私を
諭さとしてくれるから
泣いている僕を
じっと待っていてくれるから
怒っている私の話を
最後まで聞いてくれるから
失敗したって
平気、平気と笑ってくれるから
そして一緒に泣いてくれるから
一緒に笑ってくれるから
おかあさん、



ぼくのおかあさんになる準備をしてくれていたんだね。
私のおかあさんになることがきまっていたんだね。

だから、
ぼくは、
私は、
あなたの子どもになりたくて生まれてきました。

娘が高校生になった時、「どうやってお父さんとお母さん知り合ったの?」「若い頃どんなことをしていたの?」と尋ねてきました。学生時代に障がい児施設でボランティア(ワークキャンプといひます)をしていたこと、ダウン症の子ども達と出会って、進路を変えて教員の資格を取った事などを話しました。その時の娘の言葉が「梓が生まれてくるように準備をしていたんだね。」でした。まだまだ未熟な梓の親ですが、進化中と思って下さい! !

